第２学年２組　　算数科学習指導案

令和７年１０月２９日（水）第５限　２年２組教室

１　単　元　　かけ算（２）（１３時間完了）

２　単元目標

（１）九九とその構成の仕方を理解し、６から９の段や１の段の九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。（知識・技能）

（２）かける数が１増えると積はかけられる数だけ増えることに着目し、九九を利用したり、同じ数のまとまりに着目して式を考え、立式したりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）

（３）かけ算九九の構成に進んで関わり、かけ算や九九のよさに気付き、生活や学習に生かそうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

３　構　想

（１）児童観

・１学期に行った「見方・考え方をふかめよう（１）」では、問題文に即して数量の関係をテープ図に表すことができた。しかし、テープ図があっても加法か減法かで迷い、立式に戸惑う様子が見られた。問題文から数量の関係を把握し、式に表すことが苦手な子供が多いという実態がある。

・かけ算九九についての理解を深めるとともに、アレイ図や絵と対応させながら正しい式を考察する力を養いたい。

（２）教材観

・本単元では、アレイ図を使って「かける数が１増えるとかけられる数だけ答えが増える」という九九の性質を理解し、図や絵とかけ算を対応させながら課題解決していくことをねらいとしている。

・単元のはじめにアレイ図を使い、６から９の段や１の段の九九の構成を学んでいく。その後、かけ算を使った文章問題では、挿絵を基に考えたり、図に整理したりする活動を行う。問題文と図や絵を関連付けて式を考察し、答えを導き出す力を養うことができると考える。ここから新規の項目として単元の終盤では、かけ算とたし算、ひき算が組み合わされた３要素２段階の問題を解く学習を行う。問題の中に、複数の要素があることに着目すると、乗法と加法、減法を順に使って立式をし、答えを導き出すことができるだろう。

（３）指導観

・導入でアレイ図を使い九九をつくるという活動を行う。この活動を通して、九九の構成を視覚的に理解し、その後の適用場面においてかけ算の式に表して求めることにつなげていく。

・本時では、Ｌ字型に並んだものの数の求め方を見つけるという課題を提示する。子供たちは図を見て、同じ数に着目して丸を囲むことでかけ算を使いながら立式することができるだろう。その後、意見を共有していくことで、他の子も同じ数のまとまりに目を付けて立式していることに気付き、複雑に並んだものの数でも同様に考え、かけ算を使った式で求められるようにしたい。

4　単元計画＜全１３時間　本時：１２時間目＞

学習課題	学習内容	時間	主な手だて
①６から９のだん、１のだんの九九をつくろう	○アレイ図を使って九九をつくる活動を通して、乗数が１増えると積は被乗数分だけ増えることを学ぶ。	8	アレイ図の提示
②かけ算のもんだいをつくってはっぴょうしよう	○絵を見て、かけ算の問題をつくる。 ○それぞれの問題で、式や答えを考え、説明する。	2	スクールタクト共同閲覧モードの活用を通して考えの共有
③かけ算をつかってもとめ方を見つけよう	○問題文を読み、乗法と加法、減法が組み合わされた３要素２段階の問題を考える。	1	見つけたことを共有する場面の設定
④図やしきをつかってもとめ方を見つけよう	○複雑に並んだものの数をかけ算を使って考える。 ○自分の考えを図で表し、式と関連付けながら課題解決に取り組む。	2 本時 1/2	チームや全体で考えを共有する場面の設定

5　本時の学習

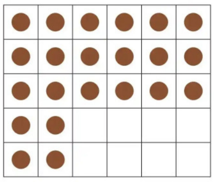
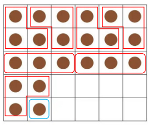
（１）本時の目標

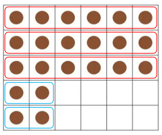
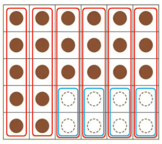
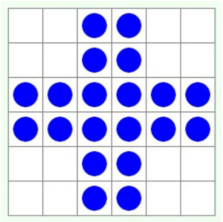
同じ数のまとまりを見つけ、複雑に並んだものの数をかけ算を使って求めたり、求め方を説明したりすることができる。　（思考力・判断力・表現力など）

（２）目標に迫るための手だて

「同じ数のまとまり」を見つければ、かけ算を使って求められることに気付くことができるように、子供たちの考え方の共通点を問い、求め方を総括する。

（３）展　開

段階	学　習　活　動	教師の支援
導入 ３	１　チョコレートの数を考える。 ・チョコレートが入っていないところがある。	・実際に箱に入ったチョコレートを提示し、何個入っているかを尋ねることで本時の課題につなげる。
課題 ２	２　本時の学習課題をつかむ。 **かけ算を使ってチョコレートの数のもとめ方を見つけよう**	・学習課題を提示する。
展開 ３５ (12)	３　チョコレートの数の求め方についての考えを聴き合う。  Aさん  同じ数のまとまりを見つけて考える方法。 ３個のまとまりが７個と１個あまるから ３×７＝21 21＋１＝22　22 個	・同じ数のまとまりを見つけて、計算しやすくするために、Ｌ字型に並んだチョコレートの図をスクールタクトで子供に配付し、考えを図に書き込めるようにする。 ・考えに行き詰まっている子供には、同じ数のまとまりを見つけるとよいことを伝え、考えるヒントを与える。

	Bさん  横２つに分けて考える方法。横に６個ずつが３列と横に２個ずつが２列並ぶから、 ６×３＝18 ２×２＝４ 18＋４＝22　22個 Cさん  全体からないところをひく方法。全体は５個ずつが６列で、ないところは２個ずつが４列だから、 ５×６＝30 ２×４＝８ 30－８＝22　22個	・１つだけでなく別の方法がないかを考えるよう促す。 ・多様な考え方に出合えるように、チームでの聴き合いの後、全体で共有する時間を設ける。 **・同じ数のまとまりを見つけて考えることができるように、１分間の総括では、友達の考えの共通点を問う。** ・「がんばりポイント」として、次の主発問を投げかける。
	＜主発問＞　○の数をかけ算をつかってどのようにもとめたい？	
(18) (5) 整理 5	４　○の数の求め方について個人追究した後、チーム内で共有する。  Aさん ・４個ずつのまとまりが５個ある。 Bさん ・横に２個ずつが４列と横に６個ずつが２列並んでいる。 Cさん ・全体から○がないところをひいて求めてみよう。 ５　チーム内で聴き合ったことを生かして全体共有する。 ・４×５＝20　20個 ・２×４＝８　６×２＝12 ８＋12＝20　20個 ・６×６＝36　４×４＝16 36－16＝20　20個 ６　本時の振り返りをする。 **同じ数のまとまりを見つけると、かけ算を使ってはやく求めることができました。**	・かけ算を使って答えを求めることができるように、同じ数のまとまりを見つけて丸で囲むよう伝える。 ・多様な考え方を子供たちから引き出すために、複数の考え方で答えを導き出している子供を称賛する。 ・様々な意見に触れ、複数の視点から考えることができるように、チームで聴き合う時間を設ける。 ・聴き合いが停滞しているチームが活発に聴き合えるように、意見に違いがある子供同士を意図的につなぎ、互いの考え方を説明するよう促す。 ・図や式に表した考え方を可視化して分かりやすく示すために、発言する子供のスクールタクトをミラーリング機能で電子黒板に映し出す。 ・考えを共有するために、スクールタクトを共同閲覧モードにして友達の考えを参考にできるようにする。 ・振り返りをスクールタクトに入力するよう伝え、共同閲覧モードで把握する。 ・同じ数のまとまりを見つけて考えることができたという振り返りを書いている子供を意図的に指名し、本時のまとめとする。

（４）評価規準

同じ数のまとまりに着目し、かけ算の式に表して数を求めたり、友達に分かりやすく説明したりすることができたか。

（活動４・５の発言や様子・６の記述から）